オオワシと鳥きち爺さん

絵手紙　オオワシ「グル」さんへ　（林フク子）

あらすじ

　諏訪湖にやってきたオオワシは、とりのすきなおじいさんとであいます…

文・絵　　林正敏
企　画　　福の会
監修・制作　諏訪湖クラブ

長野県地域発元気づくり支援金活用事業

目　次

紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」　… p 1
冊子「諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録」
　　に寄せられた礼状　… p 25
あとがき　… p 34

令和5年3月

1
オオワシと
鳥(とり)きち爺(じい)さん

オオワシと鳥きち爺さん

絵・文　林　正敏
企　画　福の会
制　作　諏訪湖クラブ

1

（表紙の中での説明文）

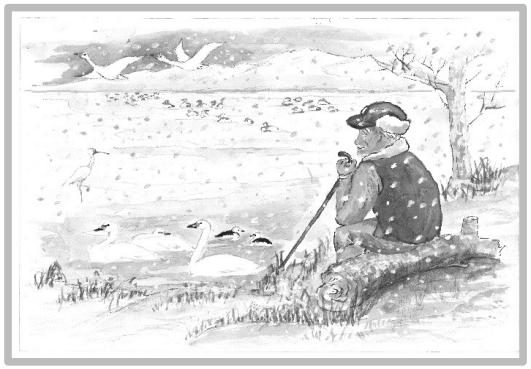
この紙芝居は、諏訪湖のほとりに住んでいる鳥が大好きなおじいさんと冬の時期に諏訪湖にやってきたオオワシとのすてきな出会いのお話です。

ぬく

演出ノート

作者の紹介
林 正敏
　日本野鳥の会諏訪支部名誉支部長、諏訪地域の自然環境、環境保全活動をリードし鳥類の保護や調査・研究に奮励した。
　支部長就任後、県に「水鳥保護や風致保全、危険防止などのため諏訪湖を全面禁猟に」と訴えるなど活動を強化。漁業や農業の被害を訴える団体に理解を求め続け、諏訪湖の全面禁猟を95年に実現させた。
　塩尻峠の塩嶺 御野立公園で始めた「小鳥バス」の案内役も継承。40年にわたり公園でさえずる野鳥の生態をやさしく解説し、県内外から訪れる野鳥ファンを増やしてきた。
岡谷市川岸に在住

2



2

諏訪湖のほとりに、それはそれは鳥が好きなお爺（じい）さんが住んでいました。
お爺さんは来る日も来る日も諏訪湖をながめては、水に浮かぶいろいろな鳥を楽しんでいました。
そんなお爺さんを、周りの人は親しみを込めて「鳥きち爺さん」と呼んでいました。

その鳥きち爺さんには大きな夢があります。
それは子供の頃にお年寄りから聞いた（お年寄り）「冬の北風は世界の果てにいる大きな鳥の羽ばたきによって起こる」という言い伝えから、
「北風をおこす鳥なんて、それはきっと神様の化身に違いない、そんなすごい鳥を一目だけでも見たいものだ！」（鳥きち爺さん）という夢です。

ぬく

演出ノート

少しまをあける

3

3

ある夜のことです。鳥きち爺さんは不思議な夢を見ました。家の前に広がる諏訪湖が大きく波うち、冷たい北風がビュービューと音を立てて吹き荒れています。

そこに、巨大なオオワシが羽ばたいているではありませんか。びっくりした鳥きち爺さんは

鳥きち爺さん
「世界の果てにいる巨大な鳥とはこのオオワシのことに違いない」

と思い、ワシにむかって

鳥きち爺さん
「おーい、オオワシさーん、北風を起こす鳥ってお前さんのことかい」

と大声で叫(さけ)んだのです。その瞬間、自分の声にハッと夢から覚めました。

鳥きち爺さん
「な～んだ夢だったのか」でも夢で見たそのワシは、白と黒の大きなつばさをもち、巨大なくちばしと足はミカン色。それはたいへん美しく、たくましい姿をしていました。

ぬく

演出ノート

少し大きな声で

4

4

不思議な夢を見た次の年のお正月のこと、鳥きち爺さんは何かに導(みちびき)かれるように諏訪湖のほとりを歩いていました。足はひとりでに早まり、ドキン、ドキンと胸が高鳴り、たどりついた場所がヤナギの岬。そこで鳥きち爺さんは驚(おどろ)きました。冬の冷たい湖に落ちたオオワシが、今にも息が絶えそうな姿で浮かんでいたのです。

その姿は、夢に出てきたあのオオワシにそっくりでした。けれどもいま目の前にいるこのオオワシは弱々しく、鳥きち爺さんにむかって

「どうか、私を助けてください」

と必死でお願いしているように見えたのです。

鳥きち爺さんは深〜い所まで入っていき、びしょ濡(ぬ)れになって大きなワシを抱(だ)きかかえ、家まで運んできました。

ぬく

演出ノート

必死におねがいするように

5

5

それからというもの、鳥きち爺さんは翼の傷の手当てをしたり、諏訪湖へ出ては網(あみ)をうって魚をとり新鮮なえさを腹いっぱい食べさせました。

大空へ飛び立つ訓練をさせるなど、少しのひまも惜しまず一生懸命に面倒をみてあげました。鳥きち爺さんのこうした優しさが通じたのか、オオワシは日に日に元気になりました。

いよいよ飛び立つ朝、山の向こうに真っ赤な太陽が顔を出し、諏訪湖を染(そ)めるなか、オオワシは鳥きち爺さんをじっと見つめ、

「何日もありがとう、必ず諏訪湖に帰ってくるから、爺さんも元気でいてね」

と言っているようです。

やがてオオワシは大きな翼(つばさ)を広げ「バッサ、バッサ」という羽音(はおと)を残し、はるか北の国をめざし、飛び去っていきました。

ぬく

演出ノート

少しまをあける

かなしそうに

6

6

この出来事があってから、しばらくの間、鳥きち爺さんは気がぬけたようにボーッとした毎日を過ごしていました。

大好きだった諏訪湖の鳥を眺めても夢うつつ、あんなに凄いオオワシを助けたことを、村人に話しても信じてくれる人はいません。

鳥きち爺さん
「もしかしたら、ぜーんぶ夢の中のできごとだったのかなあ～」

鳥きち爺さんはそう思いながら家のなかを見渡していたとき物かげに一本の立派な羽が落ちているのに気付きました。

鳥きち爺さん
「おお、これはオオワシの羽だ、すべて本当のことだったんだ」

鳥きち爺さんは再びオオワシに会えることを思い浮かべ、急に元気になりました。

ぬく

演出ノート

かなしそうに

少しまをあける

うれしそうに

7

7

次の年、冬も間近いある日、枯れ葉が舞い冷たい風がビュービューと音を立て、大きな波が岸に打ち寄せていました。胸騒ぎを感じた鳥きち爺さんが諏訪湖ばたに出ると、巨大なオオワシが鳥きち爺さんのそばに舞い降りたのです。

鳥きち爺さん
「お～お前さん、お前さんはやっぱり北風の主だったんだね」

という鳥きち爺さんの問いかけには答えず、オオワシは

オオワシ
「おかげでこんなに元気になった。何かお礼をしたい。爺さんの願いを聞かせてくれ」

と言ったのです。

これを聞いた鳥きち爺さんは大喜び、さっそく次のお願い事をしてみました。

鳥きち爺さん
「ここ諏訪湖では、ま冬になると厚い氷が割れて御神渡りができます。どうかあなたの背中に私を乗せてせり上がる御神渡りの上を飛んで見せてくださいな」

と頼みました。オオワシは少し考えたあと

オオワシ
「承知した、それでは最も寒い大寒の朝、ここへ来なさい」と約束してくれました。

ぬく

演出ノート

うれしそうに

8

8

いよいよ待ちに待ったその日がきました。厳しい寒さで諏訪湖はすっかり凍っています。そして明るくなり始めたとき、大きな羽音を響かせて目の前にオオワシが現れました。

オオワシ
「さあ爺さん、急いでわしの背中に乗って首につかまりなさい」

鳥きち爺さんは言われるまま夢中で大きな背中に這(は)い上がり、首にしがみ付きました。

鳥きち爺さん
「さあ、いつ飛んでもいいぞ」

鳥きち爺さんの言葉を待っていたかのように、裂けた氷がゴゴーンと動き出しました。

オオワシ
「爺さん、行くぞ！」

オオワシは力強く羽ばたきました。割れた氷が目の前で山脈（やまなみ）のように上へ上へとせり上がる見事さ。ギギギー、ゴゴン。氷と氷がぶつかり神さまの足音のような不思議な音を聞きながら、氷の山が出来あがる速さにあわせて飛び、とうとう諏訪湖の端(はし)から端まで誰一人として味わったことのない御神渡りを楽しむことができました。

願いが叶(かな)った鳥きち爺さんは天にも昇る夢心地で、いつまでもオオワシの首にしがみついていたいほどでした。

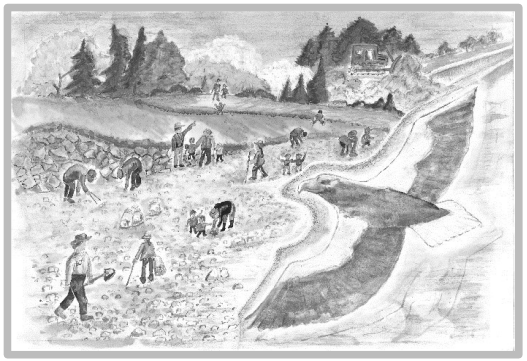
けれどもオオワシにとっては、爺さんとの約束を果たしたので、もう諏訪湖にくることはなくなりました。鳥きち爺さんと会えなくなると思うと、寂しくて仕方ありませんでした。

ぬく

演出ノート

少しまをあける

9



9

オオワシは考えました。

「どうじゃ、爺さん、この諏訪湖を大勢の力で、命があふれる湖によみがえらせようじゃないか。わしは空の上から大勢の人に呼び掛けることにしよう。そうしたら爺さんとも毎年会えるしな」

この素晴らしいアイデアを鳥きち爺さんも大賛成でした。さっそく人々に協力の呼びかけをはじめました。一方のオオワシは街の上をわざと低く飛んだり、御神渡りの氷の上に止まるなどしたため、みんながオオワシの姿に気付いてくれました。勇壮に舞う姿を見上げ人々が

「まーきれいなワシだこと」

「あのワシがいつまでも棲めるような諏訪湖にしようじゃないか」

などと言いながら、水辺に集まり始めたのです。

人びとは頭の上を飛ぶオオワシの姿を思い浮かべながら、人工なぎさを造って水草を植えたり、岸辺に落ちていたゴミを拾ったり、シジミなどの貝を放したりと、自然が豊かな諏訪湖をとり戻すため、いろいろな事を行いました。

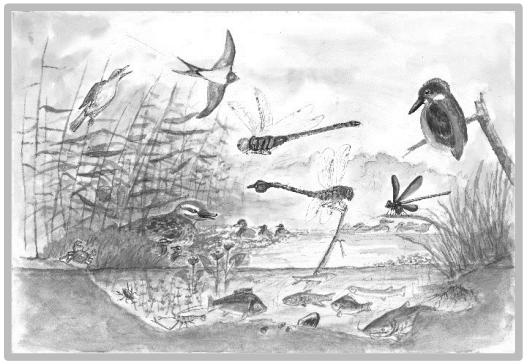
ぬきながら

するとどうでしょう。

演出ノート

少しまをあける

10



10

年ごとに諏訪湖が美しくなり、生き物が増えはじめたのです。

岸辺のヨシ原では小鳥の囀（さえず）りがひびき、美しいカワセミが姿を現し、

水上ではメガネサナエやウチワヤンマなどのトンボが飛び交うではありませんか。

そして水の中では多くの魚やエビが泳ぎ、砂地でゆらぐ水草（みずくさ）には小魚たちが集まって卵を産み、砂の中にはカラスガイやシジミなどの貝が増えるなど、湖が生き生きとしてきました。

それればかりか諏訪の人たちは、オオワシを大切にしようと様々なことに気をつかってくれました。

たった一羽の鳥をこんなにも温かく見守ってくれたことなど、今まで考えられなかったことです。鳥きち爺さんにとっては、この上ないうれしい出来ごとになりました。

ぬく

演出ノート

少し間をおく

11

11

北国へ帰ったオオワシは、しばらく鳥きち爺さんや諏訪の人たちの心優しいでき事を思い出していました。ある日のことです。たれこめた雲の切れ目からひときわ明るい光がさし、その光が大木のてっぺんに静かに止まっているオオワシを照らしました。そのとき、突如、天の声があたりにひびき渡りました。

天の声
「お前は、すばらしい行いをしてきた。私は今までお前がしてきたことを全て見届けている。よってこれからはお前を「グル」と呼ぶことにしよう」
と告げたのです。グルとは「神の化身」という意味です、こんなに尊い名前をもらった鳥は今まで他にありません。それからというもの「グル」は悩みながらも、ある思いにたどり着きました。

オオワシ
「よし、これからはもっと違う世界に飛んで行き、より多くの事を知ろう」
と決心したのです。

いらい諏訪湖でオオワシ「グル」の姿を見ることはありませんでした。グルは鳥きち爺さんの
「ありがとう」
の言葉を胸に抱(いだ)きながら、再び新しい世界へ飛んでいくのでした。

ぬく

演出ノート

少しまをあける

12

オオワシ「グル」と素敵（すてき）な出会い

オオワシ、グルに感謝を込めた大きな絵手紙　70cm×135cm

諏訪湖の上空を飛ぶ、グル

湊小で絵手紙展

諏訪湖の上のグル

小学4年でグルを学んだ児童が10年後の成人式に感動の再開

12

オオワシと素敵な出会い

この紙芝居は、実際にロシアから諏訪湖に飛来したオオワシがモデルの創作話です。

一九九六年(平成八年)に初飛来し、一九九九年(平成十一年)の一月に湖上で衰弱しているところを保護されました。

約五十日の介護を経て放鳥されたオオワシは「グル」の愛称で、多くの人に愛され、その後も長く諏訪湖に飛来し二〇一九年まで通算二十三年間もやってきてくれました。感謝の気持ちと諏訪湖がほんとうに好きだったのですね。みなさんもいつまでもきれいな諏訪湖にしたいですね。

右下の写真は四年生の時にオオワシグルの学習をした神明小の子供たちが二十歳の時に再会し(グルも二十歳)喜んでいる様子です。

左上の大きな絵手紙は、「福の会の林フク子さんがグルに感謝の気持ちを描いた作品」で45cm×88cmもあります。多くの作品を岡谷市湊小学校の子供たちにも見ていただきました。(左下の写真)

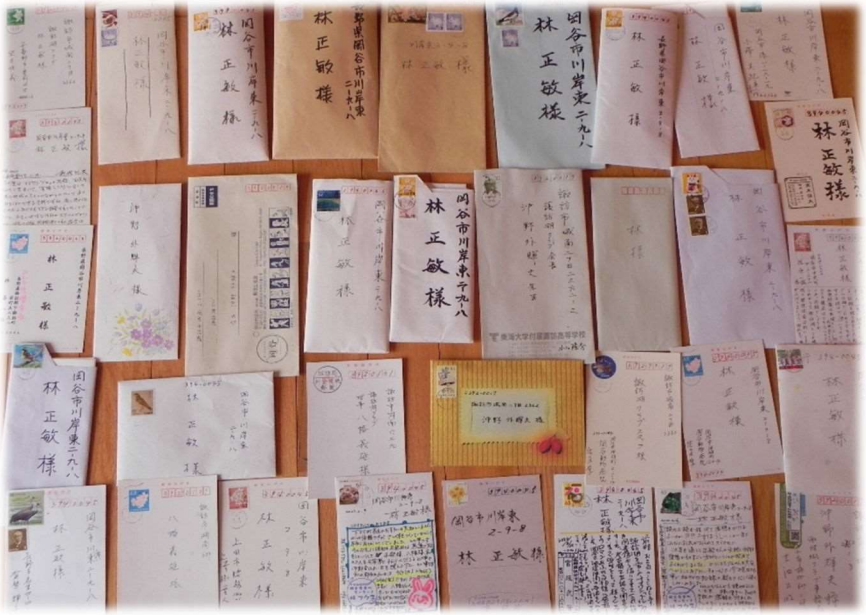
おしまい

演出ノート

少し間をおく

「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」

全国から寄せられた礼状より抜粋、ご紹介



寄せられた沢山の礼状

佐々木 厚さん　（岡谷動物病院院長・グルの診察や治療を担当）

初めて会った時のグルの美しさ偉大さに心を打たれ、何としても治してやりたいと思ったことを思い出しました。進化論が大好きで長い長い時間をかけて重力から自由になって空を飛べるように、驚くべき生命体に進化したことは奇跡としか言いようがなく、何か生命を超えた大いなる存在がいるはずだと今でも考えています。

今は少なくなった本当のナチュラリストである林さんの生き方、生命と自然への向き合い方に大きな尊敬を抱いています。

佐々木 由枝さん　（岡谷動物病院医師・グルの診察や治療スタッフ）

オオワシの生態から始まり渡りの不思議などとても興味を引く内容で、子供から大人まで楽しんで何回でも読める科学読本に仕上がっています。写真もきれいで記者としての林さんの絵も精密ですごいと感じました。

岡谷から富士見までの小学校他に配布されるとのこと。大人達がかかわったオオワシストーリーを読んで子供達が未来の諏訪湖に何ができるだろうかと思い（夢を）をふくらませるきっかけになればと思いました。

東海大学付属諏訪高等学校

記録誌を拝読し、グルの保護から翌年に飛来するまでの林さんの手記には感動しました。そしてグルを中心とした多数の資料、生物学的な知見とグルに関心を寄せる人々の思いを改めて知ることができました。

本校の生徒にぜひ読んでいただきたいと図書館におき理科を中心とした教員にも回覧しようと思います。

山崎 貢さん　（元諏訪警察署長）　上田市

平成 23 年 3 月から 2 年間諏訪警察署長をしていた時に「グル」の存在を知りました。「グル」は林様に救助され元気になりそれ以来毎年諏訪湖に飛来したことに林様とグルとに神秘的な絆や雄大なロマンを感じ、以来グルのことが本当に好きになりました。署の部屋から凍った湖上が見えましたので、双眼鏡を用意しておき時々湖上の警戒と称してグルがいないか見ていました。大きな鳥ですので肉眼でもすぐグルが氷上にいるのがわかり、双眼鏡をのぞくと大きな魚（コイか）

を食べているのがわかり、氷がはっているのにどうやってとったのかと思ったこともありました。諏訪を離れた後諏訪湖に遊びに行った際、タケヤ味噌さんの２階でグルの写真展をやっていたことがあり、紙製の小さなグル人形を買いましたが、今でも部屋に吊るして大切にしております。

本誌を拝見させていただき、林様のグルに対する並々ならぬご努力と愛情を重ねてきたことを知り感銘をいたしました。救助から野生にかえすまでの間のドキュメントには涙がでてしまいました。

本誌は諏訪湖周辺の未来を担う子供たちへ、人と野生動物や自然とのつながりの素晴らしさや大切さを教えてくれる第一級の教材であり最高のプレゼントだと実感しております。

せっかく頂いた本ですので４年生になる男の子と１年生になる女の子の孫に事情を話して見せてあげたいと思います。

グルは連続４年姿を見せてくれませんがきっと何かの事情があり来ないだけで、今も元気にしていて来季にはきっとふわっと再び湖上に姿を見せてくれることを心より祈っています。

林 フク子さん　（紙芝居制作の推進「福の会」代表）　岡谷市　本誌 p63

読めば読むほど何て感想をかけばよいのか只々〝すばらしい〟の一言で、こんなにお礼がおくれてスミマセン。

この本を通して正敏さんの生物に対する愛情がものすごい方だということが改めてよくわかりました。どうしてもグルさんを大空へかえしてあげたいその一心で介抱なさったことが細やかな記録の数々で、心に深くしみこみました。特にＰ９～Ｐ20 の手記が感銘を受けました。グルの全てがわかる詳細な記録があったからこそできた本ですね。本当に本当にありがとうございました。

牛山 英彦さん　（前茅野市教育長）茅野市

これまでに数多くの子供向けの教育冊子は発行されてきましたが、それらと一味も二味も大きく違うと感じました。この冊子も諏訪地域の全ての子供たちに配布されるとのことですがぜひ配布してください。教育現場では必ず授業に扱われると思います。

最後の「ワシに焦がれて」の文にも深く学ばせていただきました。「…諏訪湖のあるべき姿を考えさせてくれたことを思うとき、助けられたのは実は私たち人間の側ではなかったのかと思いなおしました…」という一文に私もまったく同感でした。

林さんが救助した猛禽類は 13 種、飼育したのは 50 羽とありましたが、この体験が林さんの愛鳥思想の基盤を形成されていると強く学ばせていただきました。

ほんとうにありがとうございました。

小谷 ハルノさん　（「日本野鳥の会」創始者の中西悟堂氏二女）　横浜市

オオワシ「グル」の記録を頂き、ありがとう存じました。数日私事で忙しくすごしていましたのでお礼が遅くなり申し訳ございませんでした。

今日の午后一気に拝読いたしました。長年の人形制作で目も弱くなり一冊の本を読みとおすことが出来なくなった私ですが、記者をしておられた林さんの文の旨さに引きこまれ、さすがと感服したところです。

弱っていたグルを飛び立つまでのご苦労と喜びが私を引きつけたものと思います。いいお話をありがとうございました。

柳澤 紀夫さん　（元日本鳥類保護連盟事務局長）　入間市

この度はオオワシ「グル」の記録。お送りいただきまして有難うございました。鳥と地域の人々のつながりについてよく知ることのできる資料ですね。長く続けられてきた小鳥バスも大きな影響をもったことでしょう。平生の地味な活動が大きいのでしょうね。

梨木 香歩さん（作家・グルも紹介した「渡りの足跡」は読売文学賞）東京都

先日林さんからお電話があったと、新潮社の斎藤さんが嬉しそうな声で連絡してくれました。塩嶺へお邪魔した日のことを、ありありと思いだし、ひとしきり二人で思い出話に花が咲くことでした。あれからもう十年以上も経ったのですね・・・。

『諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録』さっそく拝読しました。諏訪湖の「グル」の集大成ですね。何度拝読しても、林様のグル介護の記録は手に汗を握るような臨場感があり、引き付けられます。岡谷神明小学校の皆さんが、十年後に二十歳になって同じ歳のグルに出会ったときの弾けるような笑顔の写真にも、胸が熱くなりました。

それにしても、どこでどうして亡くなったのか、切ないことですが、いろいろ想像してしまいます。摂理とはいえ、皆が自分の身に引き寄せて自然のことを考えられるのも、グルのおかげですね。

斎藤 暁子さん　（元新潮社編集長）東京都

諏訪湖に林さんをお訪ねしたのが、15 年前だったのですね。冊子を拝見し、ますます鮮やかに想い出されました。その節は大変お世話になり、ありがとうございました。グルはどこかで命尽きたのに違いないとのこと、残念ですが林さんとグルの魂の通い合いや、グルがたくさんの人の心の指標となり勇気づけたことは永遠に残ると思います。

上澤樹 實人さん　（歌人）　上田市　本誌 p62

「グル」の記録拝受

ありがとうございました。御礼申し上げます。

良い記念になりました。

早速今から矢島先生宅に届けに行ってきます。

大和 とし子さん　（絵手紙提供者）　下諏訪町　本誌 p 65

この度は『諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録』を頂きありがとうございました。知りたいこと見たいものが網羅されており、凄い、すごい、スゴイご本です！

放鳥の翌年、グルが元気に飛来した時の感激を「身震いするほどの嬉しさであった」と、同人誌に書かれている箇所は、読んでいても胸が熱くなりました。グルの写真をこんなに沢山載せてくだって、分かり易く見応えがありました。本当にありがとうございました。

清水 佳児さん　　岡谷市

先日はオオワシ「グル」の記録をいただき、ありがとうございました。どんな形態にしても形に残しておかないと、長い時間のなかで忘れられてしまい、神話の世界になってしまうところ、先生はしっかりとお役目を果たしてくださいました。立派です。多方面に大きな影響を与えた一羽のオオワシの存在に、感謝ですね（北海道では流氷の上にカラスほどの数がいました）そして先生にしか記すことのできない飼育記録は貴重に読ませていただきました。

宮坂 恵子さん（医師、日本野鳥の会諏訪支部幹事）　諏訪市

遅くなりましてすみません。今日グルの記録誌をいただいてきま

した。すごいですね。研究も 10 年である一区切りを迎えるとよく言われますが、グルの記録は世界のどこにもない、20 年の集大成で、貴重なものだと思います。

今でもありありと、グルの勇姿が目に浮かんできます。
塩嶺でうかがった先生の面白いお話を、マンガにしてたくさんの人に見てもらうことができないかなと考えていたところでした。

メガネサナエ、蓼の海のオオヤマレンゲ、ゴイサギの卵など、自然への理解不足がもたらす取り返しのつかない失敗を共有できれば、と。その方面の才能がないのを痛感するばかりですが、この度の冊子に勇気をいただきました。

子どもたちの他にも、県の福祉大学校の学生さんたちにも是非親しんで欲しいと思いました。

川崎 徹郎さん（数学者）　晶子さん（立教大学名誉教授）

拝読。林さんの文には、ジーンときたり、感激したり、感心したり、それをまだお伝えしていなかったような気がします。グルの事はお聞きしていたし『野鳥居』にも書いていただいたんですが、これほどの深い繋がりが林さんとの間にあったとはわかっていませんでした。

グルとの出会いは一生の宝ですね。それを語り継いでいっているというのが、またすごいなと思いました。

保坂 俊正さん（諏訪交響楽団前指揮者）　諏訪市

この度はオオワシ「グル」の記録をお送り頂けたこと、心より感謝申し上げる次第です。鳥をはじめ生物にもそんなに深い知識をもっているわけではない私ですが、それでも毎年冬になると「今年のグルはいつ来るのだろう」と心待ちにしていたことは事実です。

多分塒へ向かう途中だと思いますが、家の上空を悠々と飛来したり、休憩のためか付近の木にとまっている姿を幸運にも目にし、感動したことを思い出します。そんな貴重な記録、またゆっくり拝読させていただきます。これだけの記録をまとめられた林正敏兄のご尽力とそれに至るまでの努力等、全てに敬意を表しお礼とさせていただきます。

佐原 一誠、香さん　岡谷市

冊子「オオワシ「グル」の記録、一気に読みました。大変良い記録を残しましたね。グルはメスだったから彼女の子孫をどこかに残しているでしょう。DNA 鑑定で確認できないでしょうか。これからも諏訪湖とこの地域の環境保全活動に頑張りましょう。

高木 保夫さん　（諏訪湖クラブ理事）　岡谷市

諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録、1996 年からの 23 年間を冷静に徹した記者の眼差しで記録して残されたもの。その底流に 5 歳児がお勝手の床一面に描いたワシの頭、人生の節目節目で鳥止めのない人生を導いてくれた感謝と情熱に感動です。
拝眉の節　　万々

T さん

昨日は「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』の記録」をご恵送頂きありがとうございました。早速読ませていただきました。一言で言うならトリバヤシさんの「鳥愛」が全編行間に滲んでいて、昔も今も変わらない林さんの鳥に対する眼差しの温かさと研究心に心打たれる思いでページをめくりました。グルの出会いから 2018 年の北帰まで。トリバヤシさんを軸とした諏訪湖岸の人々と、グルの間に言葉こそな

いものの、そこには実は壮大なドラマがあったことが良く伝わる記録ですね。最近勉強している能でいうと、オオワシを主役のシテとすると、ワキが林さんで、笛や太鼓、小鼓の囃子方、地謡がいて、無言劇を演じるグルの羽の動きや、瞳から何かをくみ取ることで、地球環境の問題や動物と人との関係など、様々な奥深いテーマをくみ取ることが可能になる記録だと大変面白く読みました。

林 善八郎さん　（ひかり味噌会長）　　下諏訪町

冬の諏訪湖とグルの話は心を和ます貴兄と自然とグルとの愛の物語です。脚力も衰え加えて寒さも身にしみますので湖畔の散歩も億劫になりました。一年が早く過ぎると思う反面一日が長く感じる時などは山本周五郎や藤澤周平を見るのが楽しみです。山本周五郎の庶民をみる温かいまなざしには目頭が熱くなります。余寒厳しき候ご健勝と再会を念じ上げご厚礼申し上げます。

守屋 照代さん　　諏訪市

たまたまテレビでグルの本のことが出ていまして、夫も私も見たい読みたいと思っておりましたら、大和とし子さんからメールがきました。

林先生に聞いてくださるとのことで話がすすみ、感謝しております。グルのことは大和さんからよく聞いておりましたし、梨木果歩さんの文庫も諏訪で出ており、知っていました。ほんとうにありがとうございました。

藤森 裕子さん　（日本野鳥の会諏訪支部会員）　岡谷市

種々の野鳥、小動物を深い愛情で介護して自然界に送り出す会長さんのお人柄に感謝致します。

グルも毎年諏訪湖に来てくれたのには、色々な説はあっても、やっぱり会長さんにお礼に来たのだと信じております。グルに出会えるのが楽しみで、よく立石公園に通いました。湖面から舞い上がり大きく旋回してよく止まる木にとまったり、そのまま林の奥に飛んで行く姿に出会えるのを楽しみました。

「十年の軌跡オオワシ回帰展」の講演会の後、山からおりてくるだろうと、どなたかの会話でしばらく待っていたら大勢の頭の上をさっと舞い湖上に飛んで行くグルの姿が今でも目にやきついております。

大勢の方々が色々な想いでグルを待った楽しい年月でしたね。何回読んでも楽しかった思いが蘇って感謝です。

濱 経芳さん　　岡谷市

昨日は立派な本を頂戴し有難うございます。捕獲する様子、実家での飼育、興味深く読み始めました。私のウォーキングコースが下諏訪の漕艇庫から間欠泉の往復なのです。冬になると立派な望遠レンズのカメラを三脚につけ構えている人達を見るにつけ、私も一度「グル」に遭遇したいものだと思いながら歩いていたものでした。

孫にも読ませたい本です。　感謝！

新津 みや子さん

グルは諏訪の方々にとても愛されていたのだと実感しました。私のようなものがこの本を受け取っていいのかな？と思いましたが私の知らなかったグルのことがわかり、なおさらグルが大好きになりました。また、林さんの飼育日記にはとても感銘を受けました。皆さんのたくさんのご苦労とグルに対する愛情を感じることが出来ました。

私は新聞記事でグルのことを知り、毎年グルの記事を見ることを楽しみにしていましたが 2018 年が最後だったんですね。でもまた飛んで来るような期待もあります。

この度は本当にありがとうございました。皆様に感謝しています。

望月 明義さん　（どうぶつの病院院長）　　安曇野市

『諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の記録』頂きました。早速一気に読ませていただきました。感動しました。熱心な救護、グルの再飛来が地域の人々に与えたものは計り知れないものがあります。

「十歳の児童、二十歳の門出に奇跡」は圧巻で、心豊かな大人になるでしょう。記録をまとめられて誰にとってもわかりやすく、また多角的に見られる「グル」の記録の本です。

敬意を表します。ご苦労様でした。

賀瀬 輝子さん　　長野市

「グル」のご本拝受致しました。雄々しく飛ぶグルを見上げている子供たちの歓声が聞こえてきそうな青い表紙に元気づけられました。

小林 桂子さん（県鳥獣保護管理員、日本野鳥の会諏訪支部事務局）原村

オオワシ「グル」の記録、読ませて頂きました。全体のことを知らなかったので、とても興味深く、奇跡のような凄いことだったんだと、改めて感心しました。

諏訪支部としても、何か形にして残さないと勿体ないような気がします。写真集とか、何かまとめて形にすることは出来ませんかね？ふと、思いつきで書いてしまいました。

金子 典芳さん（アオバト研究・こまたん代表者）神奈川県平塚市

大変ご無沙汰しています。お変わりなくお過ごしのことと存じます。2/2 付けで配信された毎日新聞に、グルのことで林さんが出られていることに気が付きました。

2018 年を最後に飛来が無くなったのは残念ですが、私も林さんのおかげで 2 回ほど遠くから観察することが出来、忘れられない鳥の一つです。

立派な冊子を作られたようですね。改めて、保護して見守り続けた林さん他地元のみなさんの活動に敬服します。今回の冊子ですが、もし出来るのでしたらぜひ購入させていただけないでしょうか？「こまたん」のみんなで読ませていただきたいと思います。

・

早速ページをめくってみたら、引き込まれて一気に読んでしまいました。お話しで伺っていた部分も少なくありませんでしたが、林さんがグルとの奇跡的な関りに感謝しているお気持ちに全くもって同感しました。こまたんメンバーで回し読みさせていただきます。

山路 公典さん　（鳥類研究家）　山梨県北杜市

人々の感動が伝わってくる内容でした。結びにある「助けられたのは人間の側」という気持ちが、人と自然の共生を支えるちからになりますね。

この小冊子には、幾つかの重要な価値があると思いました。

・貴重な出来事が記録として保存できる。

・学校はじめ様々な場面で教材にできる。

・諏訪湖の環境保護の啓蒙資料となる。

最後に、大変お疲れさまでした！

野溝 美憲さん　（昆虫学者・塩尻市立自然博物館前館長）　塩尻市

つぶさに拝読させていただきました。23 年の長きにわたる記録を読み進めるにつれそこかしこに林さんの「グル」に寄せる細やかな愛情を感じ感動しました。

「グル」との出会いも偶然だったようですが、それが林さんであったことは「グル」にとってとっても幸いだったと思います。

一羽の鳥のほぼ一生の記録になろうかと思いますが、記録を取り続けることの大変さは私も理解しているつもりです。それだけに、今回のように記録をまとめられ上梓されましたことに、頭が下がる思いです。

賀勢 祥子さん　長野市

「グル」のこと、信毎紙上で知りえた情報だけでしたので、こんなにも多くのことが記載されていることに驚きました。保護から始まり獣医さんの懸命な治療、介護、飼育、そして放鳥までの苦労がひしひしと伝わってきました。もう一つの驚きは、地域の人々の意識を高め「グル」を主題とした活動が文芸、美術、音楽にまで及んでいたことです。

俳句、短歌や絵手紙に彫刻。クラシック界の吉江氏や佐藤しのぶさんの心まで動かしていたのは驚きです。

酒井 千栄子さん（看護師、日本野鳥の会諏訪支部幹事）岡谷市

諏訪湖を愛したオオワシ「グル」の本を送った山岡さんから先ほど電話が来て、山岡さんが琵琶湖野鳥センターに持っていってセンターを管理している方に見せたところ、この本を何冊かセンターにおいてもらえないかと頼まれたので自分の分をコピーして、実物をセンターに置いてきたそうです。

本を借りて読みたいといわれる方が　何人も訪ねてくるそうです。それで　可能であれば　何冊か琵琶湖野鳥センター常設用に分けていただけないでしょうか。山岡さんに林さんのメールアドレスと　電話番号をお知らせしたのでそちらからも依頼が入ると思います。

よろしくお願いします。

清水 弘子さん　岡谷市在住

「グル」の冊子ありがとうございました。　「グル」のファンは友達にも多く、冊子を回してみんなで読んでいます。

P.S　「グル」っぽい鳥を折り紙で作ってみました。

グルを折り紙にしてくれました

以下は滋賀県長浜市琵琶湖湖畔にある「野鳥センター」皆さんの感想です

山岡 和芳さん

早速野鳥センターで常設させていただきました。(2022 年の) 3 月 5 日現在で 30 名以上の方が読まれています。

私たちも、先代の番のオオワシの記録をと思っていますが、回顧録となるとなかなか荷が重く手が付けられません。でも私が元気なうちにグルの記録を参考にしながら歩み始めようと思います。

今回この記録を読んで、やっぱり救助、介護から飼育、放鳥までの苦労のくだりに心を打たれました。よくぞや成し遂げられたと感銘しました。沢山の専門家にかかわってもらったことも人徳ならではこそだと思います。琵琶湖ではこれだけの関わり合いはとても無理そうです。ビルなどの構造物をバックに写真と氷上のオオワシが、琵琶湖では見られない光景と思い、グルは都会型、琵琶湖のオオワシは田舎型かなあと思いました。

琵琶湖ではオオワシが持って帰ってくる魚や鳥にテグスやルアーがついていることがありヒヤヒヤです。せめて冬季間だけでもオオワシの暮らすエリアにパスポートの乗り入れ禁止にしたいと思っていますが、その人力がなくオオワシに心苦しい思いをさせています。

この冊子は子供たちにも読んでもらえるようにと、ルビも打たれ分りやすい内容でグルも満足のことでしょう。

今福さん

山岡さんがブログで（グルの）冊子のことを書かれていたので、早く見たいと思っていました。私たちは数年前から渡り鳥を追いかけていて、諏訪湖のグルのことを知ってはいたのですが。グルが助けられて本当によかったと思います。

眞島 千歳さん

グルの生態記録だけに留まらず、珍しい写真・渡りのコース・他の猛禽類との関わり・狩猟制度の変遷・オオワシ他ハクチョウの鉛中毒・土木工事や民間企業の協力（東電の企業イメージがアップしますよね)、子ども達やマスコミ・文化的な広がり・適切な専門家のサポート・地元の人の関係行政の動きなど漏れなく記載されて、素晴らしいなあと思いました。

諏訪湖のあるべき自然を考えさせてくれたグルという視点は、山本山のオオワシには無いところだと思います。この素晴らしい冊子が出来たのは、地元に住む在野の（研究者・ボランティアの厚みでしょうか）滋賀県にも野鳥の会や、湖北野鳥の会、個人的な野鳥愛好者は多いと思われますが、個人の自己満足で終わっているように感じます。

植田 潤さん

地元の方々がいかにグルを愛していたかが分かる 1 冊だと思います。グルは保護されたことでも有名で、飼育されていた記録がとても貴重で集中して読ませて頂きました。読めば読むほど、山本山のオオワシとの違いなども気になり、聞きたくなることも生まれました。

また諏訪湖に 2 代目が飛来するといいですね。そんなワシの登場を期待したくなりました。

池田 昇平さん

諏訪湖で如何にグルがファンを、住民を、町を動かしたのかが分かる 1 冊でした。彼女は諏訪湖だけでなく、オオワシ界のレジェンドと呼んでも過言でないでしょう。

近頃にないホットなお話です。

この十年来、冬になると諏訪湖にくるオオワシのことは知っていましたか。「十年の軌跡・オオワシの回帰展」があるというので写真展をみに博物館に行き次のことがわかりました。

ちょうど十年前の一月四日、横河川先の湖上で衰弱していたオオワシを発見保護。野鳥の会のメンバーが約五十日手厚く飼育した。元気になったので自然界に放してやった。衰弱の原因は外傷が全くなく栄養不足だった。

・オオワシは国の天然記念物・遠い国ロシアから飛来してくる、わが国最大のワシ

・羽を広げると二・二メートル

・体重は約六・五キログラム

・現在は十四才

・えさは魚、カモ、鳥類

・名前はグル

グルの由来は保護したときに「グル」と泣いたから。このグルさんメスで今年は幼鳥と飛来してきた。

冬になると毎年はちょうど十年目。なんと感動するお話しでしょう。遠いロシアから命を助けてもらった恩人めがけて飛来するのでしょうか。数々の写真をみながら心があつくなりこうれしくてたまりませんでした。

今日はまだこの辺には姿をみせないとの事、会いたいので又いってみます。

二〇〇九年睦月二十五日　林フク子

湊小学校での作品展示の前で、左から林正敏さん、大和とし子さん、林フク子さん

作成　林フク子さん　図の大きさ　52cm×138cm

林 正敏　（諏訪湖クラブ会員・紙芝居の作者）

　　諏訪湖クラブが先に制作しました「諏訪湖を愛したオオワシ『グル』 は主に小中学生にむけて 2022 年 1 月につくったものです。 配布もすぎて半年ほどたったある日、絵手紙の教室で学ぶ知人の女性から「幼児にむけたグルの紙芝居を是非つくりたいが、林さんの協力なくして前にはすすめない」とのご相談。 グルを介護した私が筋書をつくり、絵は絵手紙の先生である林フク子さんが描かれるとのことでした。

　紙芝居は子どもの想像力や共感力をたかめる効果があるといわれ、以前から幼児教育の現場では絵本の読み聞かせとともに、根強い人気があるだけに創作にはイマジネーションを高めることが肝要でした。

　いらい創作について夜な夜な夢の世界に遊んだすえが今回 のストーリーです。事実はほんのわずかで大半は空想の世界です。この物語にはどんな絵が合うか、絵手紙の皆さんにイメージを高め作ってもらおうと、創作文に仮絵を添えたところ「この絵を軸でいこう」と思わぬ展開になりました。

　筆を重ねるごと私の絵は崩れ、色は濁り出来ばえは明らかに素人作品になりました。けれどもこの紙芝居には仲間たちの熱意や強い願いがこめられています。どうかご覧になるお子さん方には、この紙芝居をとおして豊かな感性の醸成に少しでもお役にたつよう願ってやみません。

　最後になりましたが諏訪湖クラブの八幡義雄様には、完成にいたる実務で多大なご尽力をいただき深く感謝申し上げます。

琵琶湖に飛来するオオワシについて

　琵琶湖に飛来するオオワシは雌で、令和 5 年も 25 季連続で飛来し、地域の人から「山本山のおばちゃん」と親しまれています。

　詳しくは山岡和芳さんのブログ「びわこオオワシ夢日記」https://blog.goo.ne.jp/washi8008 をご覧ください。

オオワシと鳥きち爺さん
企　画　福の会
作　成　林　正敏（諏訪湖クラブ会員）
印　刷　令和五年三月
非売品